

令和 6 年 経済建設委員会行政視察報告

〔参加委員〕

委員長 清水 秀三郎

副委員長 小林 英朗

委員 三石 義文、木内 義春、小林 松子、土屋 啓子、市川稔宣

1 視察日時 令和 6 年 7 月 24 日（水）～26 日（金）

2 視察先及び視察事項

- ・京都府 「地雇用機会と就労機会の推進について」
- ・兵庫県豊岡市 「芸術文化観光専門職大学と深さを持った演劇のまちづくりについて」
- ・京都府舞鶴市 「スマート農業の推進と、新規就労者を含む農業従事者への支援について」

3 視察概要

(1)京都府「地雇用機会と就労機会の推進について」

京都府が主体となり、労働者団体や経営者団体をはじめ多くの関係機関が一緒になって、京都で働きたい方や京都企業を支援する目的で設立された京都ジョブパーク。

公・労・使による共同運営方式を採用し、若年者、中高年齢者、女性、ひとり親家庭、障がいのある方で就職を希望する方、福祉、農林水産業に就職を希望する「働きたい！」ニーズに応じたきめ細かな支援を行なっている。

佐久市においても今後多様化する就労支援あり方について、ニーズに応じた支援策を検討していく事や、いわゆる、U・I・J ターンと呼ばれる就労希望者に対し、希望に応じた、現在から今後に向けての就労支援策について、視察選定とした。

ア 日時 令和 6 年 7 月 24 日（水）午後 2 時 30 分～午後 3 時 30 分

イ 対応者 京都府商工労働観光部雇用推進課長

ウ 内容

京都ジョブパークで行っている就労支援事業は多岐にわたっており、一例として、就職氷河期世代や高齢者向けのスキルアップセミナー、セカンドチャレンジセミナーや、地域就労支援機関と京都ジョブパークとの連携による適正マッチン

グ事業、障害のある学生のキャリア体験事業・企業担当者との個別座談会等が挙げられる。

また、人材確保対策として京都人材確保センターを中心とした、サイトを通じた企業研究・マッチング支援、中小企業向けの「多様な働き方支援補助金」、大学と連携した就職支援協定、インターンシッププログラム、学生安心就職トライアル事業、生涯現役クリエイティブセンターのリカレント研修・学び直しビジネス講座等、就職活動の前段階での支援事業も盛んである。

就労に際し不安を抱えた就労希望者に寄り添った取組であると言える。

エ 考察

当市においては現在、転出者よりも転入者の多い、社会増といった状況であり、今後もU・I・Jターンを考えている移住を希望される方が多い状況である。その反面、人口減少や若者の地域離れといった状況でもあり、地域の中小企業では経営継続に不安や課題を抱えている事業者が多くなっている。こうした多様化する就労希望や中小企業の課題に際し、今後の就労支援のあり方をきめ細かく、寄り添った形で、検討していくことが重要であると言える。



京都ジョブパーク内での様子

(2)兵庫県豊岡市「芸術文化観光専門職大学と深さを持った演劇の街づくりについて」

兵庫県豊岡市が掲げる、深さを持った演劇のまちづくり～小さな世界都市に向けて～の基幹となる、芸術文化観光専門職大学が取り組んでいる食・芸術・スポーツからなる文化観光という考え方と、それを踏まえた豊岡市のLocal&Global City・ローカルであること、地域固有であることを通じて世界の人々から尊敬され、尊重されるまちづくりについてを、視察選定とした。

ア 芸術文化観光専門職大学

日時 令和 6 年 7 月 25 日（木）午前 11 時 00 分～午後 00 時 00 分

豊岡市

日時 令和 6 年 7 月 25 日（木）午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

イ 対応者

芸術文化観光専門職大学

地域リサーチ&イノベーション推進部地域協働課 課長、主査、大学副学長
豊岡市

豊岡市観光文化部観光政策課 課長、課長補佐、主幹

ウ 内容

豊岡市の『深さを持った演劇のまち』事業により、市内にある現存する最古の芝居小屋である「出石永楽館」。2008 年に復活がされ柿落としとして片岡愛之助氏を座頭として永楽館歌舞伎が興行された。また、城崎温泉にあった会議場を改修しパフォーミングアーツに特化させた日本最大規模の滞在型創作施設「城崎アートセンター」が 2014 年にオープンし、2023 年度はレジデンス応募数が 15 カ国 51 件、そのうち 12 件が採択され、現在も稼働中である。また劇作家の平田オリザ氏が 2019 年に氏の劇団である「青年団」ごと豊岡に移住し、豊岡を拠点にダイレクトに世界を相手に作品製作を始めたこと。豊岡演劇祭が 2019 年より開催され、2023 年の開催では、公式プログラム 19 団体、フリンジプログラム 71 団体、延べ観客動員数 23,647 名、これは豊岡市各地域に会場を設けて豊岡市全体を使つての演劇祭であったこと。まちづくり×演劇祭を開催することで、地域の活性化、交流人口や関係人口の創出が多く生まれ、観光消費額や経済波及効果にも多く影響を及ぼした。

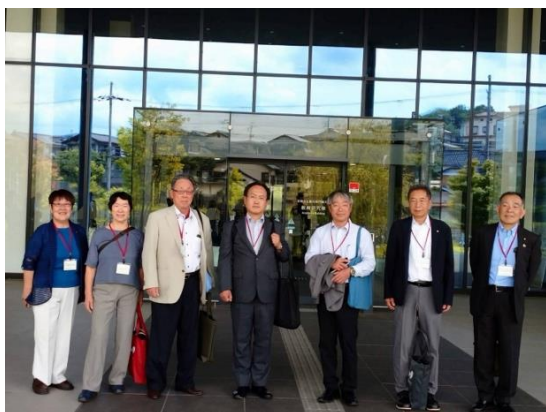
また、2021 年に開学した芸術文化観光専門職大学は、芸術文化と観光の二つの視点から地域活性化を学ぶ日本初の大学であり、コミュニケーション教育、子どもの生きる力を高める教育、そして、観光に重点を置いた地域経済の活性化や文化資源の保存・活用、魅力向上・来訪者の増加といった文化・観光・経済の好循環を目指し、実際に在学生の半数以上が豊岡演劇祭にボランティアスタッフとして参加し、また多くの学生が何らかの形で演劇祭に関わっていくといった中で、文化観光による地域の文化・観光・経済の活性化に繋げようとしている。

エ 考察

文化政策を地域経済や観光の活性化に繋げようとする試みは、我が国では未だ

可能性が未知数であり、今後どのような結果をもたらすか誰も判断がつかないところではあるが、豊岡市の取り組みは地域に根ざした文化・観光・経済政策であり、今後の推移を注視していく必要がある。しかし、Local&Global City という、ローカルでありながら世界を相手にし、地域を動かしていこうとする試みは、シビックプライドやローカルアイデンティティの観点からも非常に興味深いところである。ひいてはそれが、経済に与えていく影響は大きなものがあると考えられるが、その成果が出るには時間が必要であると考えられる。また、豊岡市には古くからの歴史を持つ、観光地である城崎温泉があり、湯治客などの外部から流入する移住者や観光客に懐の深い伝統が地域住民の中にあることも考慮すべき点である。

いずれにせよ、豊岡市のこのような取組は、多くの地方都市の今後の在り方に、ひとつの可能性を示唆しているものと考えている。



芸術文化観光専門職大学と城崎アートセンターの様子

(3) 京都府舞鶴市「スマート農業の推進と、新規就業者を含む農業従事者への支援について」

海軍の軍港として名高い舞鶴港を擁する京都府舞鶴市の第一次産業は、農業生産額と漁業生産額を比較すると、農業生産額の方が多い。主要な農産物ブランドとして京都の伝統野菜である「万願寺甘とう（唐辛子）」や「佐波賀だいこん」また「舞鶴茶」がある。「万願寺甘とう」はスマート農業の推進により商収量のアップに繋がっている。また、新規新規就業者への支援も行われており、農業を基幹産業とする佐久市にとって参考になる部分があると考え、視察選定とした。

ア 日時 令和6年7月26日（金）午後1時30分～午後3時00分

イ 対応者 舞鶴市産業振興部農林課 課長 係長

ウ 内容

特徴的な取り組みとして、農産物ブランドである「万願寺甘とう」の高付加価値化、スマート農業化が取り上げられる。生産者・J A・行政が一体となったブランド化&トップセールスの取り組みは、著名なタレントを使った大掛かりなもので、生産者全員を「部会」とし、共同で運営するグループに加入、そしてスマート農業の推進として、技術を教えあったりデータを共有するなどし相互にレベルアップしていくものである。

また、新規就農者への支援もおこなわれており、京の米生産イノベーション事業、スマート農林水産業実践チャレンジ事業、京野菜加速化事業（パイプハウス）、京野菜加速化事業（生産・流通）など、国の支援事業と合わせて支援が行われている。新規就農者の支援として移住支援制度も府と市とが連携して行われている。

エ 考察

スマート農業で重要なIT企業との連携により、課題の可視化がされ、それが共有されていること、GPSトラクターやセンサーなどの農業機械への補助金、データ取りをしてアプリを開発するなど、注目できる点がいくつか見られた。

また、万願寺甘とうは舞鶴市のものである、というプライドを持って生産にあたる農家が多くいることは、J A・行政との関係性において大切なポイントであると考えられる。

資料や肥料、燃料等の支援が臨機応変な形で行われたことも、ブランド維持の観点からも注目すべき点であると言える。

今後、当市において、農産物のブランド化、スマート農業の推進の参考にすべき点が多く見られた。



舞鶴市役所での様子